

モニタリング結果報告書

施設 相模湖漕艇場

指定管理者 特定非営利活動法人神奈川県ボート協会

施設所管課 スポーツ課

(平成 22 年度 上半期)

管理運営状況総括

1 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	備考（確認事項等）
4月	5月10日	5月31日	適正に行われていると認められる。
5月	6月9日	6月30日	適正に行われていると認められる。
6月	7月8日	7月30日	適正に行われていると認められる。
7月	8月9日	8月30日	適正に行われていると認められる。
8月	9月10日	9月30日	適正に行われていると認められる。
9月	10月12日	10月29日	適正に行われていると認められる。

2 指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

(1) 提案内容の達成度

A：提案を上回る B：提案どおり C：提案を下回る

(2) 実施状況等

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績を記載する。

<提案内容の概要>

シーズン中（春・夏期）の漕艇場の無休化及び開場時間の拡大を実施する。

<実施状況>

利用促進のため、4月1日から9月30日までは原則無休とし、開場時間についても利用者の要望及び安全を考慮し、シーズンに応じた開場時間の拡大を図った。

【開場日】

4月1日(水)～9月30日(水) 8月1日(日)以外無休(8月1日は相模湖花火大会のため休場)

【開場時間】

該 当 期 間	条例に定める開場時間	臨時に変更する開場時間	理 由
平成 22 年 4月1日(木)～4月30日(金)	午前8時30分～午後5時	休日及び平日で利用者の希望があった場合	シーズン中の 利用促進
平成 22 年 5月6日(木)～7月11日(日) 9月1日(水)～9月13日(月)	午前7時～午後7時	平日で利用者の希望がない場合 午前6時30分～午後7時30分	
平成 22 年 5月1日(土)～5月5日(水)	午前7時～午後7時	午前6時30分～午後12時	遊船業者との 湖面利用調整
平成 22 年 7月12日(月)～8月31日(火)	午前7時～午後7時	午前6時30分～午後7時30分	シーズン中の 利用促進
平成 22 年 9月14日(火)～9月30日(木)	午前7時～午後7時	休日及び平日で利用者の希望があった場合 午前6時30分～午後6時00分 平日で利用者の希望がない場合 午前8時30分～午後7時30分	日没時間による調整

<提案内容の概要>

艇庫保管艇の無料メンテナンスサービスを実施する。

<実施状況>

- 5月：艇庫に保管されている艇の修理サービスを実施した。
- 6月：艇庫に保管されている艇の修理サービスを実施した。
- 7月：艇庫に保管されている艇の修理サービスを実施した。
- 8月：艇庫に保管されている艇の修理サービスを実施した。
- 9月：艇庫に保管されている艇の修理サービスを実施した。

3 収支状況（単位：千円）注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しません。

	収 入 額			支出額	収支差額
	指定管理料	利用料金 (前年同月 料金額)	その他収入		
年間予算額	21,408	19,627	1,781	21,408	0
上半期計 (a)	10,615	9,565	1,050 (1,084)	10,053	562
下半期計 (b)			(-)		
4月	1,774	1,730	44 (68)	1,651	123
5月	1,884	1,738	146 (107)	1,779	105
6月	1,727	1,580	147 (257)	1,806	△79
7月	2,016	1,499	517 (205)	1,479	537
8月	1,598	1,512	86 (291)	1,513	85
9月	1,616	1,506	110 (156)	1,825	△209
合計 (a+b)	10,615	9,565	1,050 (1,084)	10,053	562

- 1 指定管理者の収入を記載する（県の収入である「使用料」は含まない）。
 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見等

- ・半期計欄の収支差額が、収入額又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。
- ・また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。
- ・年間予算額の収支が均衡していない場合は、その理由を記載する。

該当なし

(今期に行った資本的な収入及び支出の状況)

	内容	金額(千円)
収入の状況	該当なし	
支出の状況	該当なし	
積立等の状況	該当なし	(期首)
		(期末)

収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。
 支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。
 積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容（施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等）、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

4 利用状況

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計 (a)	8,719 人	13,275 人	△34.3%
下半期計 (b)			
4 月	885 人	997 人	△11.2%
5 月	1,318 人	1,803 人	△26.9%
6 月	1,403 人	2,444 人	△42.6%
7 月	2,087 人	2,356 人	△11.4%
8 月	985 人	3,349 人	△70.6%
9 月	2,041 人	2,326 人	△12.3%
合計 (a+b)	8,719 人	13,275 人	△34.3%

利用状況に関する意見等

〔 半期計欄の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。 〕

昨年に比して3割からの減少になっているが、本年は県内の大会のみで昨年のように関東や東日本の大会（各県持ち回り）が開催されなかったことが大きな要因となっている。こうしたことから利用者の増減は大会の開催の有無によって変わってくる。これからも協会で開催しているボート教室や大会への参加者が増えるよう協会と一体となって推進していく。

5 苦情・要望等の状況

(施設受付分)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
4 月	0	0	0	0	0	0
5 月	0	0	0	0	0	0
6 月	0	0	0	0	0	0
7 月	0	0	0	0	0	0
8 月	0	0	0	0	0	0
9 月	0	0	0	0	0	0

(施設所管課受付分)

報告月	口頭	文書	合計
4 月	0	0	0
5 月	0	0	0
6 月	0	0	0
7 月	0	0	0
8 月	0	0	0
9 月	0	0	0

6 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

〔 類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなどを記載する。 〕

該当なし

分野	概要	対応状況
施設・設備	・	
	・	
職員対応	・	
	・	
事業内容	・	
	・	
その他	・	
	・	

7 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、県庁改革課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。

該当なし

発生日	概要・対応状況等
月 日	
月 日	
月 日	

8 随時モニタリングの実施状況

事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。

該当なし

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日			
月 日			

9 上（下）半期の所見等

1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。

指定管理者

管理運営に万全を期さなければと肝に銘じ2年目の業務をスタートした。特に水上でのスポーツであるため安全面には十分な配慮をしなければならない。そのためコースや艇の管理、コース内の見回り等、常に気配りをして事故が起きないように努めている。また、艇庫内の一角にトレーニングのできるスペースを設け利用者の利便を図っている。

利用者アンケートにおいて、利用者からの意見を聴く中で要望等については、出来る限りの対応をして不便をかけないように対応をしている。

施設所管課

関東や東日本レベルの大会開催がなかった影響で、利用人数が昨年度上半期と比較すると大幅(3割)に減少したが、利用料金収入は微減に留まっていることから、実質的な利用人数の減少はほとんどないものと推察される。

また、事故等もなく安全に管理されており、苦情も報告されていないことから、利用者との良好な関係が保持されていることが窺え、全体として適正な管理運営が行われていると考える。

冬場は例年利用者数が少なくなるため、利用者が増加する取組み等利用促進を図られることを期待したい。